初登庁後、役場職員に向けて就任のあいさつを述べる佐藤公敏町長。10月16日、本庁会議室

Mounthly Pickup

新たなまちづくりへのスタートライン

茶業の低迷、商工業・観光業の苦戦、人口の減少…

社会情勢は悪化し、町も多くの課題を抱える中、

本町第２期まちづくりの舵取り役となった佐藤公敏町長

みんなを乗せ出航した「川根本町丸」は、

これからどんな未来に向けて、進んでいくのだろうか…

佐藤公敏自身が、その意気込みと責任を語る

「地域の元気」を再生していくことが、今何よりも必要なこと

わたしは、このたびの町長選挙で、皆さんから力強いご支援をいただき、川根本町の町政を担当することになりました。

今回の選挙を通じ、町内をくまなく歩かせていただきました。町が合併して4年、本町は一つの町としてまとまってきていると感じていますが、しかし、地域の現状を見てみると、数々の課題が山積しているのも確かです。

主要産業である茶業は、需要が伸び悩む中で茶価が低迷し、農家の実入りは非常に悪くなっています。また商工業では、景気の悪化を受け、好材料を見いだせないまま悪戦苦闘が続いています。観光業についても同様です。ここ数年、観光客の入り込み客数は減少し、春先からの新型インフルエンザの影響もあり、大変厳しい状況が続いています。

このような状況を何とか打破していかなければなりません。何より「地域の元気」を再生していくことが大切であり、そのために何ができるのかを考えていかなければなりません。

県政では、7月の知事選挙で川勝平太静岡県知事が誕生しました。そして国政では、8月の衆議院議員選挙で、日本の政権が交代しました。

これまでの中央集権型の構造から、地方分権・地方主権への動きが大きく加速していくだろうと思います。わたしたちの町でも、国や県の動きに合わせて、柔軟に発想を変えていかなければなりません。地方が自ら考え、自ら決定し、自らの責任で、物事を進めていかなくてはならない、大変厳しい時代に入っていくと考えて良いでしょう。

本町の存在感を高めるため、さまざまな資源を磨き、つなげたい

6月には富士山静岡空港が開港を迎えました。この空港と、背後に連なる南アルプスをつなぐ大井川と沿線の道路・鉄道。これらを軸として、広域的な連携を図りながら、本町の存在感を高めていくことが必要と考えます。

そのために川根本町の「自然力」「歴史力」「文化力」「技術力」といった資源をさらに磨いていかなくてはな

川根本町長・町議会議員当選証書授与式は10月5日、本庁3階会議室で執り行われた。小澤藤夫選挙管理委員長から佐藤公敏氏に当選証書が渡される。証書を受け取る手にも力がこもる。

Mounthly Pickup

新たなまちづくりへのスタートライン

地方分権・地方主権への動きが加速する今、
地方が自ら考え行動していかなければならない
広域的な連携を図り、本町の存在感を高めたい

10月16日、初登庁する佐藤公敏町長を役場職員が出迎える。花束を手に決意を新たにした。